

令和2年度 県中学総体陸上競技の部

新型コロナウイルス感染症対策マニュアル

県小中体連陸上競技専門部

【1】 大会を実施するにあたっての感染症対策のポリシー

- ① 3密を回避する配慮を徹底して行う。
- ② 生徒の自覚（自ら自分の身を守り、他人に感染させない）を促す指導をする。
- ③ 部活動再開ガイドラインと施設利用に関するガイドラインを遵守する。
- ④ 感染者が発生した場合の濃厚接触者の特定ができる体制を整備する。

【2】 具体的な対策

① 大会への移動方法

山梨中銀スタジアムへの交通手段については感染リスクの少ない自転車・徒歩・保護者送迎等による現地集合をお願いしたい。

② 各部の集合形態

「ソーシャルディスタンス」「マスク着用」の徹底。「手袋着用」も推奨。

③ 開閉会式は実施しない。

④ 参加制限

○要項参照

⑤ 招集の方法について

○選手の密集を避けるため、招集所を開設せず、現地集合のみとする。場所と時間についてはプログラムの指示に従うこと。（トラック種目＝スタート地点付近、フィールド種目＝各ピットを基本）

○雨天練習場は走幅跳の待機所とし、指定された位置で待機する。

（1～2m間隔）

例) 100m

2組1レーン、2組2レーン…プログラム記載通り指定された時間に指定された位置に集合し、順次スタート

4組 3組 2組 1組 スタートライン

● 2m ● 2m ● 5m ●
● 2m ● 2m ● 5m ●
● 2m ● 2m ● 5m ●

○競技者係は出発係と連携し、選手のDNS等をその場でシステムに入力する。

○フィールド種目の待機場所では1.5m間隔で指定場所を作成

⑥ 服装について

- 審判員は原則としてマスクは全員が着用、しかし、熱中症対策として個人の判断においてマスクを一時的に外すことも可。フェイスシールド・ビニール手袋・軍手（推奨）
- 選手は原則としてマスクは全員が着用、しかし、熱中症対策として個人の判断においてマスクを一時的に外すことも可。（競技時は外してよいが、待機中は着用する）手袋着用（推奨）

⑦ 観客席対策

- 観客席は、メインスタンドのみ開放する。メインスタンドには、小中体連の規定に則り、学校長の認めた入場許可証を持っている生徒及び外部指導者、部活動指導員、入場許可証を持っている3年生の保護者・報道関係者・卒業アルバム業者のみ入場可とし、スタンド入口にて入場許可証による入場規制を行なう。（保護者以外の親族・知人・OB等の来場は禁止とする。）***来場生徒の兄弟姉妹等は入場できません。**
- メインスタンドは、ビニールテープによって区分けをし、上段を保護者席・下段を生徒席とする。指導者と報道関係者・卒業アルバム業者については、下段とする。
- メインスタンドには、座ってよい座席に目印を貼って表示し、そこに座ってもらう。係員が巡回する中で、スタンドにいる全員がソーシャルディスタンスを保つことを徹底する。
- 感染者が発生した場合の濃厚接触者の特定対策として、**保護者には、観客履歴用紙を配布し、自分が座っていた座席の番号を帰りに報告してもらう。**
- スタンドで密集することや声を出しての応援は厳禁とする。
- スタンドでは、巡回係がソーシャルディスタンスやマスク着用のルールが守られているかを常にチェックする。マスクを着用していない人が見受けられた場合は、着用を促し、持っていない人はTICにて購入してもらう。
- 保護者には、顧問より別紙座席説明図により事前周知するとともに、巡回指導により密集、密接の回避対策を行う。

⑧ 各学校の対策

- 各学校でテントやシートでベンチを作って構わないが、**平素よりもスペースを広めに取ることと、ベンチ内で密集しないよう徹底する。**自分の競技がない時間帯は基本的にはメインスタンドでの観戦を推奨し、ベンチにいる人数が多い場合には一部がメインスタンドへ移動するよう指導する。係員が巡回指導を行って徹底する。
- 大会中、部員同士での握手やハイタッチ、ハグ等の行為がないよう事前に各校で指導を行う。
- 当日出たゴミについては各校で責任を持って持ち帰る。

⑨ 補助競技場・更衣室の使用について

- 補助競技場は**選手・指導者のみ入場可**とし、付き添いは入場できない。**リレーは除き**集団でのアップや練習等は禁止とし、個別に距離を保って活動を行う。入口で規制を行う。
- 更衣室には係員をつけ、最大15名定員で更衣が終了次第すぐに退出してもらう。

⑩ 消毒対策

- 各学校で消毒液を持参し、ベンチ等に常備しておき頻繁な消毒を徹底する。
- 玄関・各ゲート等の出入口と必要な競技場所に消毒液を設置し、選手・競技役員・保護者の消毒を促す。競技前後の導線を示し、密にならないくふうを施す。
- 共用の器具に触れる種目では競技前に手を消毒し、競技後にまた手を消毒するという方法を取る。

例：100m： スタート前に手を消毒、スタブロに触れる、ゴール後に手を消毒

砲丸投： 投擲前に手を消毒、砲丸を投げる、1投投げる毎に手を消毒

※注意点 手の消毒は、手洗いも推奨するが、タオルの使い回しは厳禁とする。

⑪ 健康チェック・参加要件

- 大会当日までの各校で使用している健康チェック表を学校の責任のもと作成し、本人が健康であることを確認した上で保護者に参加の承諾をしていただく。症状がある場合は顧問に報告し、大会への参加を自粛していただく。各学校の顧問は当日朝の大会受付時に来場した生徒の「保護者参加同意書」を1日目、2日目それぞれ1枚ずつ提出する。
(※大会に来場するすべての生徒が提出) 及び、大会に来場するすべての生徒、教員、その他関係者全員は健康チェック表のコピー(初日のみ)を提出する。提出できない場合は参加及び入場を認めない。

※競技に参加する選手だけでなく、競技に参加しない部員についても、来場する際は保護者参加同意書を提出しなければならない。その他関係者においても大会2週間前から当日までの間に「該当する」に○がある場合は来場を自粛する。

- 当日の検温欄に記載がない生徒は、参加の可否を判断する。(体温計は各校で用意したものを使用)
- 試合後も来場した人全員の体調チェックを2週間続け、症状が4日以上続く場合は必ず最寄りの保健所、医師会、診療所等に報告する。症状には個人差があるので、強い症状と思う場合にはすぐに報告すること。保健所、医師会、診療所等に相談するとともに、各校顧問に必ず連絡する。顧問は委員長の樋(塩山北中)に連絡し、該当者の大会後のチェックシートを回収して提出する。

⑫ 競技運営について

- 全種目・全組の招集時刻を記載し、全て現地にて招集を行うことで密集を避ける。
- 時間短縮のため、決勝のみレーン紹介を行う。
- 表彰については3位までとし、机上に用意してある賞状を自分で取って台上へ登る。

⑬ 救急・救護体制について

- 大会中、救護室に看護師が常駐する。
- 看護師の指示の下、救護室の他に隔離室を設け、環境を整備する。
- 近隣の医療機関と連携し、必要な場合はすぐに搬送できるようにする。

⑭ 報道対策について

○報道関係者及び卒業アルバム業者などについても生徒・教員・損他関係者と同様、健康チェックシートの提出を義務付け、事後の健康チェックも継続してもらおう。4日以上症状が続いた場合は委員長の樋（塩山北中）まで連絡してもらおう。

⑮ 大会期間中、参加者の中に感染が判明した場合の対応

○大会中に発熱等の症状を訴える者を確認した場合は、常駐の看護師と相談の上、保護者に連絡し、帰宅させる。

・各校顧問は、常に責任を持って体調を確認する。

○中銀スタジアムがクラスターと思われる感染者が発生した場合

・大会中止

※感染者・あるいは濃厚接触者が発生した場合、①常駐の看護師と相談の上、直ちに保健所・小中体連事務局、保健体育課へ連絡する。また、報告書を作成し提出する。②感染者の所属する学校や行政機関の指示に従う。③当該校顧問は、速やかに委員長に報告する。④委員長は感染者が参加した大会当日に会場にいた全ての学校と参加者（役員・審判・3年生保護者等）に連絡する。